

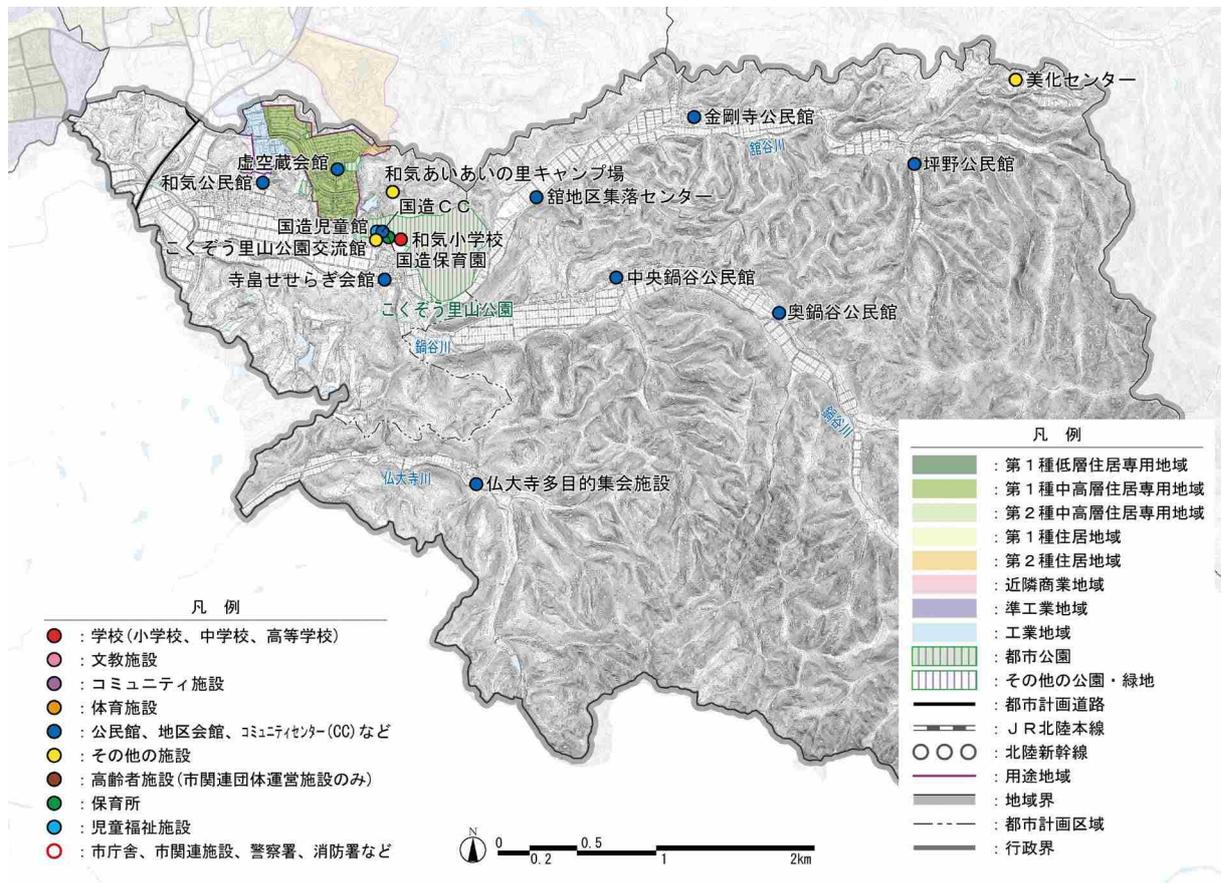
9. 和気地域

1) 地域の現況

(1) 概況

- ・地域の大半が山間丘陵部であり、鍋谷川と館谷川が地域の中央部を、仏大寺川が南部を流下しています。
- ・丘陵部の谷間に7つの集落が点在しており、そのほとんどが急傾斜地に面しています。また、和気町の北側丘陵地には和光台住宅団地が開発されています。
- ・中心部には和気小学校が立地するほか、こくぞう里山公園や和気あいあいの里キャンプ場などのレクリエーション施設が整備されています。また地域の東部には一般廃棄物処理施設の美化センターが立地しています。

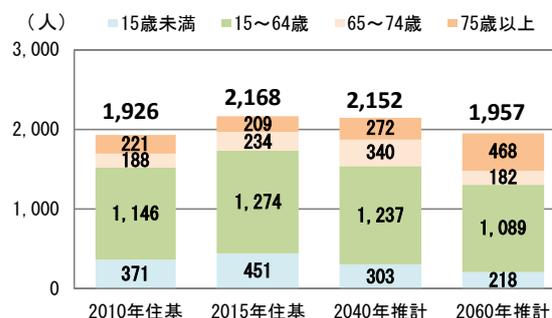
【地域の現況図】



(2) 人口

- ・人口は2015年時点で2,168人であり、2010年から2015年にかけて増加していましたが、和光台を除く既存集落では減少しています。また、2040年には2015年比でほぼ横ばいと推計されています。
- ・年齢構成は、2015年時点は65歳以上が20%でしたが、2040年には28%になり、75歳以上も13%を占めると推計されています。

【人口の推移と将来推計】



出典：能美創生人口ビジョン

(3) 交通

- ・本地域には市外へアクセスできる幹線道路として、(主)小松辰口線や(主)寺畠小松線、加賀産業開発道路などがあります。
- ・地域間を結ぶ幹線道路として、(市)湯屋和気線や(市)岩内金剛寺線があります。
- ・民間交通事業者によるバス交通が運行するほか、コミュニティバス「のみバス」については、山間部の各集落や宮竹地域を結ぶ辰口循環バスが運行しています。

(4) 地域環境

- ・地域のほとんどが山間丘陵地であり、林産物の豊富な自然環境を有しています。
- ・市指定文化財の蟹淵や虚空蔵山城跡、遣水観音山など、里山ならではの貴重な地域資源が存在しています。
- ・本地域で生産されている市特産品の国造ゆずが県特別栽培農産物に登録されています。

【遣水観音山】



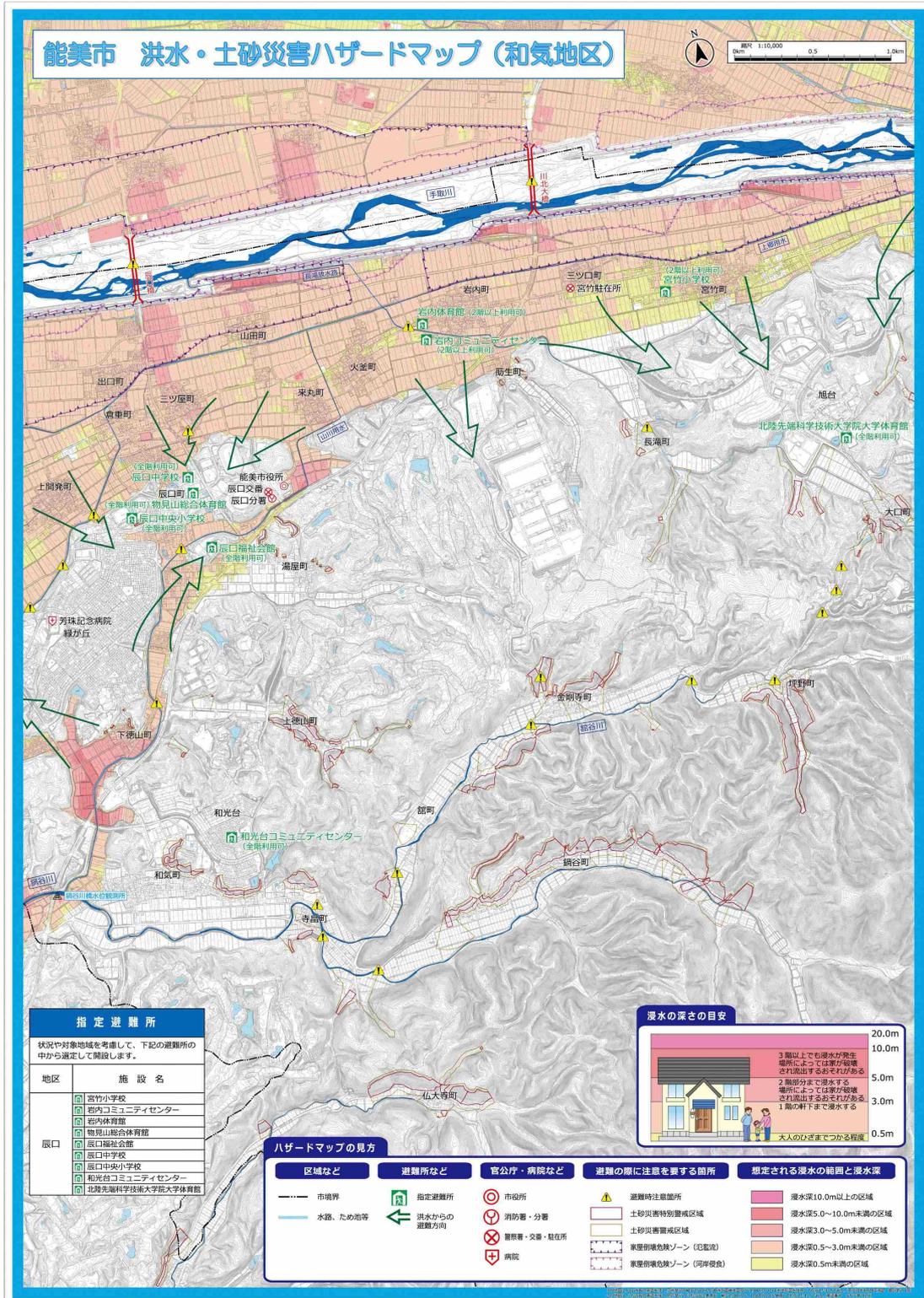
【国造ゆず】



(5) 災害

- ・本地域では、各集落の周辺に土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域が指定されているほか、鍋谷川の一部で河川の洪水による浸水想定区域が指定されています。

【洪水・土砂災害ハザードマップ】



(6) 住民意向

- ・市民満足度調査（2017年都市計画関連分野）では、地域全体の平均値よりも満足度の値が低く、重要度の値が高い項目として、「移住・定住の促進」「林業・山村の振興」「居住環境の充実」「適正な土地利用の推進」「道路の維持・整備」「公共交通の充実」が挙げられます。
- ・これまでのタウンミーティングでの主な意見は、「国造ゆずのバックアップ」「森林の維持、利活用」「道路の安全対策」「集落内の除雪対応」「公共交通の充実」「JAISTバスの利用拡大」「魅力の発進、シティプロモーション」などが挙げられました。

【満足度・重要度】

	満足度	重要度
評価が高い項目	①工業の振興 ②暮らしの質の向上 ③観光と交流の推進	① <u>道路の維持・整備</u> ② <u>林業・山村の振興</u> ②工業の振興
評価が低い項目	① <u>公共交通の充実</u> ② <u>道路の維持・整備</u> ③商業の振興	①歴史・文化・伝統の継承 ②観光と交流の推進 ②里山・自然の保全と活用

※1 下線は地域全体の平均値よりも満足度の値が低く、重要度の値が高い項目 出典：市民満足度調査（2017年）

※2 次の項目はいずれの地域においても上位を占め、地域差がみられないため除外した

満足度：「上下水道の維持・整備」「歴史・文化・伝統の継承」「里山・自然の保全と活用」「水環境の保全と活用」

重要度：「上下水道の維持・整備」

2) 地域の課題

地域全体	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な都市機能が集積した地域生活拠点としての機能の維持・充実 ・人口減少に対応した活性化策の検討 ・空き家・空き地の有効活用 ・里山などの豊かな自然環境を活かした「自然環境拠点」としての機能拡充
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な土地利用の誘導による、自然豊かな里山・優良農地の保全および集落の維持・活性化 ・里山の魅力を活かした移住・定住の促進
都市施設	<ul style="list-style-type: none"> ・こくぞう里山公園の利活用の促進 ・民間路線バスと連携した、のみバスを含めた公共交通の利便性向上
地域環境・地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品としての国造ゆずの付加価値の向上 ・文化財の景観・環境の保全と活用
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・急傾斜地における土砂災害への対策 ・河川の水環境保全や治水対策および災害時の避難場所・避難経路の確保

3) 将来像・地域づくりの基本方針

(1) 地域の将来像

豊かな自然を守り活かし、 里山の暮らしの価値を高める地域づくり

豊かな自然環境やこくぞう里山公園などを活かした交流の促進とともに、本市の特産品である国造ゆずなどの地域資源を活かした6次産業化などによる地域内循環を高め、地域の活力とにぎわいの創出を図ります。

また、和気小学校を中心として日常生活に必要な拠点機能を高め、集落間の連携を強化することで、集落の維持・活性化を図るとともに、里山の暮らしの価値を高め移住・定住などによる地域振興を図ります。

(2) 地域づくりの基本方針

①土地利用・拠点整備の方針

里山・山間地区の豊かな自然環境を保全・活用するとともに、生活拠点の機能の強化を図り、里山の良好な居住環境を活かした移住・定住の促進に資する土地利用を図ります。

A. 都市系

住居地	低層住宅地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 和光台住宅団地においては、今後とも良好な居住環境を維持していきます。
	一般住宅地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 能美東西連絡道路沿線では、新たな移住・定住の受け皿としての住宅地や日常生活の利便性向上に資する都市機能等を誘導します。
商業地	沿道商業・業務地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 加賀産業開発道路沿線では、交通利便性を活かし、田園・集落との調和を図りながら、日常生活の利便性向上や地域活性化に資する商業・業務系の土地利用の誘導を検討します。 ● 地域北部の（市）湯屋和気線沿線の一部では、里山の魅力を活かし、観光・交流に資する商業系の土地利用を誘導します。
工業地	産業集積地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 和気工業適地については、今後とも周辺の住環境に配慮した土地利用を図ります。

B. 田園・自然系

集落・田園地域	集落地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 和気町や寺島町においては、将来的にもコミュニティを維持していくため、空き家・空き地も活用しつつ、生活利便施設も含めた住居系土地利用の誘導を図り、集落の活力維持および活性化を図ります。
	田園地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 鍋谷川やその支流である館谷川沿いに広がる田園部については、今後も優良農地の保全に努め、本市を特徴づける良好な田園景観として保全します。
自然活用地域	レクリエーション地区	<ul style="list-style-type: none"> ● こくぞう里山公園や和気あいの里キャンプ場については、良好な自然環境と調和した土地利用の規制・誘導を図ります。
	里山地区	<ul style="list-style-type: none"> ● 里山地区については、比較的なだらかでみどり豊かな丘陵地の特性を活かし、防災面に配慮しながら自然と調和した里山景観の維持・保全を図ります。 ● 里山地区の集落部においては、古くからのコミュニティを維持していくため、里山の魅力を活かした移住・定住の促進などによる活力維持および活性化を図ります。 ● 地域の交流やにぎわいの創出に向け、6次産業化などによる地域振興に資する土地利用を検討します。
自然保全地域	山間地区	<ul style="list-style-type: none"> ● みどり豊かな森林や貴重な動植物など、多くの自然が残り水源涵養といった重要な役割も担っている山間部については、良好な自然環境の保全を図ります。

C. 拠点

まちづくり拠点	<ul style="list-style-type: none"> ● 豊かな自然環境やこくぞう里山公園などを活用した「自然環境拠点」としての機能拡充を図ります。
地域拠点	<ul style="list-style-type: none"> ● 和気小学校周辺においては、日常生活に必要な機能の集積や交通機能の充実などによる「生活拠点」を形成します。

②都市施設の整備方針

(主) 小松辰口線などの幹線道路の維持・充実や公共交通の利便性向上とともに、こくぞう里山公園や豊かな自然環境を活かし、地域内外の交流を促進します。

A. 交通施設

主要幹線道路 (基幹都市軸)	<ul style="list-style-type: none"> ● 加賀産業開発道路は市外や他地域と連絡する大動脈であり、機能維持による地域内外の連携強化を図ります。
幹線道路 (地域連携軸)	<ul style="list-style-type: none"> ● (主) 小松辰口線や(市)湯屋和気線などの他地域や小松市を広域的につなぐ幹線道路については、機能の維持・拡充に努めます。 ● (主) 寺畠小松線は地域の西部を横断し、小松IC等へのアクセスを向上させる幹線道路として機能維持に努めます。
主要な生活道路	<ul style="list-style-type: none"> ● (県) 鍋谷寺畠線などの主要な生活道路については、今後も地域の利便性を確保するために適切な維持管理に努めます。
集落内生活道路	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩行者や自転車にやさしい安全・安心な道路空間の創出および住民と行政の協働による維持管理を促進します。
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ● のみバスの利便性向上による利用促進に努めるほか、地域ニーズに応じた多様な移送サービスの確保などにより、地域生活拠点と集落の連携強化を図ります。 ● 公共交通の積極的な活用による利用促進を図ります。

B. 公園緑地

都市公園	<ul style="list-style-type: none"> ● こくぞう里山公園については、良好な自然の恵みを活かしながら、ふるさと学習やレクリエーション、地域交流の場として適切な維持管理および機能の充実を図ります。
その他の公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> ● 各町会に整備されている小公園については、施設の整備状況に合わせて地域コミュニティ醸成の場、子ども達の遊びの場として充実を図るとともに、適切な維持管理を推進します。

C. その他都市施設等

海岸・河川・水路	<ul style="list-style-type: none"> ● 鍋谷川やその支流である館谷川については、関係機関との調整を図りながら水質保全など水環境の保全に努めます。
供給・処理施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 上水道については、老朽化した施設・管路の計画的な更新や耐震化を進めるとともに、下水道の適切なマネジメントにより、生活環境の改善、公衆衛生の向上、河川の水質改善を図ります。 ● 廃棄物では、5R運動の推進によるごみの減量化を目指します。
その他の公共公益施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 美化センターについては、適切な維持管理に努めます。 ● 小学校やその他の公共公益施設については、老朽化に応じた改修や耐震化、バリアフリー化などによる施設機能の維持・充実に努めます。

③地域環境形成の方針

山間地の豊かな自然環境や鍋谷川、蟹淵などの水環境の保全を図るとともに、市特産品の国造ゆずや文化財などを活用した魅力の発信および交流の促進を図ります。

自然環境	<ul style="list-style-type: none">● 鍋谷川と館谷川沿岸、蟹淵などについては、貴重な自然植生や水環境の保全に努めるとともに、人と自然がふれ合える場所としても活用を図ります。● 豊かな自然と共生した里山の適切な維持管理による保全と地域コミュニティの維持を図ります。
地域資源	<ul style="list-style-type: none">● 虚空蔵山城跡や遣水観音山については、貴重な歴史資源としてその環境の保全を図りつつ、利活用の促進に向けた機能向上に努めます。● 市特産品の国造ゆずの付加価値の向上を図ります。
景観	<ul style="list-style-type: none">● 山間地のみどり豊かな景観の保全に努めます。

④安全・安心な地域づくりの方針

里山・山間地区や小学校周辺の土砂災害防止対策などの防災機能の充実とともに、防犯機能や交通安全の強化、地域福祉による支え合いなどにより、住民がいつまでも、安全に安心して生活することができる地域づくりを推進します。

防災	<ul style="list-style-type: none">● 鍋谷川、館谷川に沿った山間の地域において、土石流危険区域や急傾斜地崩壊区域が集中しており、関係機関との調整を図りながら区域内の地すべりや土石流・崩壊防止対策に努めます。● 和気小学校裏のこくぞう里山公園では、土砂災害の防止に向けた対策工事を進めます。● 近年頻発している震災および大雨等に対して、自主防災組織の結成・活動支援の推進や各種ハザードマップを活用した情報提供、防災情報伝達システムの構築などによる防災対策に努めます。
防犯	<ul style="list-style-type: none">● 防犯効果の向上が見込まれる環境面に配慮したLED灯を推進するとともに、関係機関と連携した防犯意識の啓発や防犯パトロールの強化、それらを補完する防犯カメラの設置に取り組みます。
交通安全	<ul style="list-style-type: none">● 通学路、生活道路は人優先を基本方針とし、歩行者と自動車の分離や自動車への注意喚起と速度抑制を徹底するため、ハード・ソフト対策の一体的な取組みを推進します。
地域福祉等	<ul style="list-style-type: none">● 住み慣れた場所で安心して暮らし続けられるよう、官・民が協力して地域の実情に合ったまちづくりを進めます。● 身近な地域でお互いに支え合う地域活動の核となる地域福祉委員会の活動の充実を図ります。

和気地域 将来構想図

